

糖尿病患者のフットケア外来システム構築に関する研究

看護学科成人看護学領域 澄川 真珠子 准教授



Q. この研究に取り組んだ背景は何ですか？

A. 糖尿病の治療目標は、糖尿病の合併症の発症、進展を阻止し、ひいては健康な人と変わらない寿命の確保、健康な人と変わらない人生を目指すことです。そのためには、糖尿病を持つ人は長期にわたり、食事、運動、薬物、フットケアなどといった様々な療養を生活の中に組み込んでいく必要があります。とりわけ、自立歩行ができるかどうかは生活の質に影響します。そこで、糖尿病を持つ人が、全国の医療施設で、適切なフットケアが受けられるように全国のフットケア外来のシステムを構築することが必要だと考えました。フットケア施設の質改善や看護実践力が向上することは、糖尿病を持つ人のフットケア行動の向上や良好な血糖コントロールにつながり足病変の重症化予防につながると期待できます。

Q. この研究の目的、方法について教えてください。

A. 本研究の目的は、糖尿病患者のためのフットケア外来システムの構築にむけて、全国フットケア施設が自施設における組織的課題を明確化し改善の方向性を導き出せる枠組みを開発すること、看護実践力を向上するためのアセスメントツールを開発することです。全国の糖尿病看護に携わる看護師を対象に、SWOT 分析を使用した効果を検証しています。

内部環境	【強み】 Strength	【弱み】 Weakness
外部環境	【機会】 Opportunity	【脅威】 Threat

図 1.分析枠組み

SWOT とは、組織の内部の強み(Strength)と弱み(Weakness)、外部環境における機会(Opportunities)と脅威(Threats)の頭文字をとったものであり、各項目の現状を抽出してマトリックスで示し、課題を洗い出す手法であり、経営環境を整理する戦略的な枠組みです。糖尿病看護に関連した学術集会の交流集会、全国調査などを実施して検討しています。また、アセスメントツールの開発については、これまでに足潰瘍発症リスク分類表を提案してきましたが、「家族支援力」や「地域包括ケア」に関する指標の追加を検討するため、附属病院のフットケア外来において介入研究を実施しています。

Q. これまでの主な研究成果と将来の展望を教えてください。

A. 低侵襲で簡便に神経を評価する方法の開発、足病変が重症化するリスクがある患者に対する効果的なフットケア支援内容や介入頻度の提案などについて学会や論文で発表してきました。今後は、足潰瘍発症リスク分類を行うためのさらなる指標の開発や全国のフットケア施設の組織的な課題を改善するための方策を検討していきたいと考えています。糖尿病患者の一人一人が、毎日の生活の中で足を守ることができ、足切断にいたるような重症化した足病変が生じないようにすること、足を切断する患者を減らすことは、患者の QOL の維持・向上に加えて、わが国の医療費の削減につなげていきたいと考えています。



図 2.神経検査（触圧感覚テスト）



図 3.フットケア外来における爪ケア

もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

・看護学科成人看護学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ns/ns_seijin.html

・大学院保健医療学研究科看護学専攻成人健康看護学分野 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g_ns/g_ns_seijin-kenkou.html